

地球市民学

共生と平和の科学

第2節 地球市民学 後期

原 順 子・三小田 博 昭
中 村 明 彦・佐 藤 良 子

【抄録】 後期の地球市民学は『共生と平和の科学』という講座名で授業実践をしている。11年度で10年になる。SLP（サイエンス・リテラシー・プロジェクト）のみならず本校のESD（持続可能な発展のための教育）の一環としても機能している。持続可能な開発目標を達成するために生徒に仮説を立てさせ、検証した。

【キーワード】 ESD 持続可能 共生 平和 子どもの人権 ジェンダー 貧困 国際協力 仮説

1. はじめに

(1) 講座の目標

『共生と平和の科学』は、現在起こっている地球上の諸問題を「子どもの人権」「ジェンダー」「貧困と国際協力」という具体的・多角的な視点から探究し、地球市民として解決に向けて自分たちに何ができるかを科学的に学ぶ講座である。過去10年間にわたり次のような目標を掲げている。

1) 地球上の様々な集団が互いに認め合い、平和に共生共存できる可能性を探ることができる。

（認知的目標 本校SSHの目標では B・C）

2) 同じ時代を生きる身近な人々や地球上の遠く離れた

人々の生活に関心を持つことができる。

（情意的目標 本校SSHの目標では A・D）

3) 持続可能な共生社会の実現のために自分たちに何ができるかを考えて行動することができる。

（態度的目標 本校SSHの目標では B・C・E）

(2) 学習方法—SLPⅡの独自性

学習方法は10年間一貫して次の4つを講座の独自性として掲げている。それは、①複数の教員（1クラスに3人）、②学外講師の授業、今年度は、共同授業者として愛知淑徳大学異文化コミュニケーション専攻の佐藤良子先生に来ていただいた。③題材は教師が選ぶ、④答えのない問題に取り組む、ことである。

2. 実践内容

(1) 年間授業計画

テーマ			子どもの人権	ジェンダー	貧困と国際協力
内 容			子どもの人権に焦点をあて、世界の子たちを垣間見ながら自分たちの生活を振り替える。	ジェンダーの視点で、差異のある集団が共生していくには、どうすればよいかを考える。	「貧困」「国際協力」という課題に向き合い、自分たちがやるべき協力活動を探る。
担 当			三小田・佐藤	原・佐藤	中村・佐藤
回	月	日	導入（仮説をたてる）		
1	10	14	オリエンテーション 原「sexとgender」三小田「世界がもし100人の村だったら」		
2		21	オリエンテーション 中村「貧困はどこから」		
3		28	マップから仮説を立てる	マップから仮説を立てる	マップから仮説を立てる
4	11	4	グループ仮説発表会 合同授業		
展開（検証する）					
5		18	改めて自分を見つめてみる エゴグラム		合同授業
6	11	25	子どもにとって幸せとは	らしさと好ましき	コーヒーからみる貧困と国際協力
7	12	2	子どもの人権を考えよう	言葉とジェンダー①	援助は誰のため何のため
8		9	児童労働 識字率	言葉とジェンダーと異文化理解 佐藤先生「性差別の変化」「支援活動と性差」	
9		16	マスメディアの影響力とメディアリテラシー 高井先生（子どもの人権とジェンダーの合同）		協力援助の気をつける点 問題発生の原因追及

			発 展		
10	1	6	冬休み課題メディアリテラシー発表会	冬休み課題メディアリテラシー発表会	冬休み課題メディアリテラシー発表会
11		13	効果的な援助とは①	ノルウェーの教科書	国際協力活動の現状
12		20	協力隊OBの体験談 (国際協力と合同)	世界のジェンダー 豊かさを はかるものさしHDI	協力隊OBの体験談 (子どもの人権と合同)
13		27	世界の子どもの現状とジェンダー 山田肖子先生 (子どもの人権とジェンダーの合同)		国際協力プロジェクトを 考える①
14	2	3	効果的な援助とは②	AA/PAの可能性	自分達のやりたい協力活動
ま と め					
15	2	17	まとめのワーク 仮説から検証考察する		
16	3	2	集 録 作 成		
17		9	まとめのワーク 地球市民として私たちにできること		
18		16	集録綴じ・アンケート		

(2)テーマ毎の検証

先に述べたように、本講座の三つのテーマ「子どもの人権」「ジェンダー」「貧困と国際協力」は教師が設定したテーマである。生徒たちは、この中から各自の関心や興味に従って自分が学ぶテーマを選ぶ。授業の早い段階で生徒たちはこれらのテーマに対してどのような問題意識を持っているか、グループ仮説のトレンドを取り上げ、各テーマで分析してみた。

1) 子どもの人権

・メイントレンド

教育、貧困、国、衣食住、労働、愛

・派生したトレンド

学校、収入、医療、社会、政府、児童労働、低賃金、家族、男女、友だち、勉強、虐待、権利、貧困、平等、自由、やすらぎ、格差、栄養失調、環境

・特徴

国内の課題と世界的な課題が混ざり混沌としている。

・仮説

共生と平和の実現には現在、子どもに対する国内と国際の間関心があるために、子どもが子どもとして過ごすことが出来る時間が短いという課題がある。この課題を解決していけば共生と平和の実現に近づき、私たちは地球市民として持続可能な開発目標を達成するところ出来る

・アンケートから読む生徒の検証結果

○検証結果1：それぞれの授業を受けて、私の立てた仮説は大体正しかったことがわかりました。また、発展している国としていない国とでの子どもの守られるべき人権の差異はなく、どの国の親も子どものことを第一に考え、行動していることもよくわ

かりました。

○検証結果2：私は「人権を主張するための知識が必要」という仮説を立てて考察してきたが、これに関しては結論を出すに至らなかった。しかしながら事実として子どもの知識が高ければ解決出来るようなこともあるように感じられた。やはり学校ではもっと人権や社会について教えていく必要があると考える。これを基礎として学問を教えていくのが本来の学校のあるべき姿ではないだろうか。そのためには経済面での支援に加えて、教師の養成など的人道的な支援をもっとすべきであると思う。そして私たちはこのような問題があることを知り、そのために何をすべきか考えることが大切ではないだろうか。

○検証結果3：自分の思っていた仮説はユニセフの募金のことや、それについて知っている人の少なさという点で合っているのではないだろうか。より多くの人に正しい認識を持ってもらうことで、間違っている支援の仕方を正しい方向に変えていくことが重要なことになると思います。

2) ジェンダー

・メイントレンド

身体、社会、思考、見た目、価値観、仕事

・派生したトレンド

体格、能力、立場、役割、コミュニケーション、生活、服装、趣味、家事、権力、考え方、収入、地位、スカート、妊娠、主婦、出世、学校、文化

・特徴

国内の、現在の、自分の身の回りに関する課題が多

い。世界には目が向いていない。

・仮説

共生と平和の実現には現在、古くからの男女のイメージ、価値観、考え方の違い、といったステレオタイプに基づく固定概念が少なからずある、という課題がある。「男は～、女は～」という先入観による課題を解決していけば共生と平和の実現に近づき、私たちは地球市民として持続可能な開発目標を達成するところ出来る。

・アンケートから読む生徒の検証結果

- 検証結果1：仮説を検証して、区別方法の違いがジェンダーの問題点と同調する、と私は断定した。ジェンダーの根本が「考え方」というところに依り、それはすなわち「区別」であると考えたからである。詰まるところ、ジェンダーの元となっている考え方である性差の区別方法に関してを学び、詳しく理解することが先述した仮説における課題を解決し、共生と平和の実現、持続可能な開発目標の達成に向けた大きな一歩となるのだと私は思う。
- 検証結果2：私の仮説はすぐに砕かれた。女性卑下のない時代もあった点だけでなく、全く進歩し続けることが出来ない国が世界にはたくさんあるという点もだ。このことはジェンダー間における平和が行われ続けていると信じていた私にとっては非常にショックなことだった。日本という比較的差別の少ない国に住んでいて、信じようとしていただけかも知れなかったことを深く反省した。このままでは絶対にいけないと思い、まずはみんながこの現状を知ることから始めるべきだと思った。
- 検証結果3：この仮説は正しいのではないか、と思う。昔は男女の役割が固定化され、考え方が偏っていたのに対し、現在は男女平等な社会になりつつあり、より柔軟な考えを持つことが可能になってきていると思う。先入観に縛られることなく、男女互いに活躍出来る環境をつくるのが、これからの発展につながって行くのではないかと思う。

3) 貧困と国際協力

・メイントレンド

経済、教育、支援、環境、平和、国、医療

・派生したトレンド

産業、GDP、学校、宗教、人的支援、温暖化、医療、核、革命、国連、民族、恋人、経済、文化、栄養不足、少子化、女性、子ども、価値観、環境

・特徴

国際的な課題が多い。経験から得たというよりは、これまでに学習した知識で考えている。

・仮説

共生と平和の実現には技術が必要で、それを伝え合う制度や継続していけるようなシステムを構築するという課題がある。課題を解決していけば共生と平和の実現に近づき、私たちは地球市民として持続可能な開発目標を達成するところ出来る

・アンケートから読む生徒の検証結果

- 検証結果1：授業を終えて自分の立てた仮説と比べてみると、的を外した考えにはなっていないけど、考えが浅く改善策を全く考えていませんでした。共生と平和のために自分たちが出来ることは、身近なことで不具合が生じたらその根本を探して改善策をいつも出せるように心がけたいです。
- 検証結果2：私は貧困を世界から消すことは不可能だと思います。資本主義社会で資本家と労働者という2つの分類がある以上、富の量に差が出来てしまうのはしょうがないと思います。しかし、労働に見合わない賃金で働かされ、生活もままならないという環境は改善しなければなりません。そのためには先進国が援助することにより、必要な知識や技術を身につけ、国際的な地位を向上させる必要があると考えました。これが私の仮説です。不当な扱いを受けている人々を助けるためにすることはたくさんあり、何をすれば相手国のためになるのかを考え、自分に出来ることから実行するところが大切だと思いました。
- 検証結果3：仮説を立ててみたものの、まずは小さなことでもいいから、基本的なことを伝えていくことが大事なのではないかと思った。また、共通の意見や目的を持つ人と協力して何かをやれば変わると思った。

3. 事後アンケートから読む成果と課題

- ・自分の意見が他人に言えた。世界にも視野が広がった。自分の知識を増やす(情報をたくさん持つ)こ

とは大事だと思った。(子どもの人権)

- ・全体的に固定観念を外し、いろんな角度から物事を見ること、そうやって視点を変えてみると面白いことに気づけたりするな、と思いました。みんなでワークをやって特にそう思いました。(ジェンダー)
- ・大学の先生の授業はとても専門的であったので、自分の中でモヤモヤとしていた問題意識に言葉として整理がつかしました。また、発表ではみんなの発表を聞いて自分にも新しい考えが生まれ、良い経験をしました。(国際協力)
- ・最初は3つのテーマの共通点はよくわからなかったけど、授業を重ねるうちにわかってきた。男、女、日本、世界、子ども、大人、とそれぞれの目線からの世界をみることで、自分の視野を広げ、他人の考えや意見をきちんと理解してあげることじゃないかなと思う。自分の感情や考えだけで行動、言動するのではなく、他人を受け入れることで社会の幅を広げて、いずれはもっと大きな輪になって平和になればいいのに。世界各地で起こる紛争やテロが絶えない理由がわかった気がした。(子どもの人権)

(文責 原 順子)

